

シリーズ 貝殻利用による気候変動対策

JFシェルナースに繁茂する南方系ホンダワラ類

地球規模の気候変動により、海水温の上昇や海面上昇、酸性化など様々な課題があがっています。藻場の保全においても、高水温では安定した藻場形成が難しいアラメやカジメ類に代わり、南方系の海藻種に着目する事例が増えてきています。ここでは、九州の西南部海域でのJFシェルナースへの南方系ホンダワラ類の着生状況を報告します。

南方系ホンダワラ類とは？

元々は亜熱帯や熱帯を中心に分布し、長崎県あたりを分布の北限としてしていたホンダワラ類で、海水温の上昇に伴い九州を中心に広い範囲で見られるようになってきました。種としては、キレバモク、マジリモク、コナフキモク、ウスバモク、フタエモクなどが含まれています。

JFシェルナースでの繁茂事例



マジリモクなど
長崎県長崎市（水深 6m）
設置 1年2ヵ月後



マジリモクなど
宮崎県日南市（水深 10m）
設置 3年9ヵ月後



マジリモクなど
鹿児島県指宿市（水深 3m）
設置 1年1ヵ月後



コナフキモクなど
鹿児島県いちき串木野市（水深 12m）
設置 2年2ヵ月後

